



2年サイエンスツアー（東京・筑波）2日目 Bコース JAXA・筑波宇宙センター、地質標本館、サイエンス・スクエアつくば

2日目Bコースでは、JAXA・筑波宇宙センター（宇宙航空研究開発機構）、地質標本館、サイエンス・スクエアつくばの順に3ヶ所の研究機関を訪問しました。

午前9時30分からJAXAの概要説明を受けた後、バスでセンター内を移動しながら、研究施設の見学と説明を受けました。その後、健康増進室室長の村井先生による「国際宇宙ステーションでの日本の役割」についての講演が行われ、現在までの宇宙飛行に関する歴史と、今後の宇宙ステーションを中心とした宇宙開発の展望を、プロジェクターを用いて分かりやすく説明していただきました。午後は産業技術総合研究所の地質標本館を訪れました。地質標本館副館長の方に館内の各ブースを説明していただきました。館内は展示ホールと第1～第4展示室からなっており、世界の様々な岩石、鉱物、化石の標本や火山活動のしくみや日本列島の成り立ち等が分かりやすく体感できるブースなどが数多くありました。午後3時からはサイエンス・スクエアつくばに移動し、研究員の方によるヒューマノイドロボットについての説明と演示、2グループに分かれての各展示物の見学などがありました。午後5時に宿舎である筑波研修センターに帰り、筑波大学名誉教授の小熊 譲氏による「向陽高校生に伝えたいこと・・・『科学と平和』」についての講演がありました。午後9時からは、Aコースに参加した生徒と合流し、各班で当日の研修内容をまとめ、OHPシートを用いての発表会を実施しました。Aコース・Bコースとも、報告内容をよく工夫し、分かりやすく発表を行っていました。

SSH報告

2年 サイエンスツアー2日目 Bコース



参加生徒の感想より

「宇宙飛行士は、大きなプールに入って何回も訓練を重ねることによって、やっと宇宙に行くことができるって聞いて大変なんだと思った。」
 「今までロケットのことをあまり知らなかったけれど、今回見学したり、歴史を教えてもらったりして、宇宙はすごいと思った。」
 「内容が難しかったけれど、いろいろな化石や模型などを見学できて、良かったです。」
 「平和と科学のつながりがよく分かりました。大学や大学院のことも教えていただけて良かったです。紹介された本も読んでみたいです。」



SUMMER SCIENCE CAMP 2007 に参加して

夏休み中、実験・実習を主体とした科学技術体験合宿プログラム「サマー・サイエンスキャンプ」が各開催地で実施されました。

本校からは、2年環境科学科の松柴一真君が、8月1日（水）～3日（金）に足利工業大学総合研究センターで行われたプログラムに参加しました。実習では、自然エネルギー利用についての講義、風車やソーラークッカーが展示されている「風と光の広場」の見学、太陽光・風力利用の実習での「ソーラークッカー」「小型風力発電機」の製作、風洞実験や3日間の成果についての発表会などが行われたそうです。

サイエンスキャンプは、夏だけでなく、冬・春にも行われます。興味のある人は参加してみてもいいかな。

参加生徒の感想より

「サマーサイエンスキャンプで、いろいろなことを学ぶことができました。普段の授業では体験できない実験・実習なども行うことができました。特に、「ソーラークッカー」が印象的でした。太陽光という自然エネルギーを使い料理するもので、電気を使わないので環境にもよく、画期的なものだと思います。太陽光利用の実習で、その「ソーラークッカー」を自分で作ることができ、とてもうれしかったです。サマーサイエンスキャンプを今まで知らなかったのですが、そのことを後悔するほど、この3日間、楽しく過ごすことができました。また参加したいと思いました。」

